

「笹山縄文広場整備基本計画（案）」に寄せられたパブリックコメントの実施結果について

教育文化部文化財課

十日町市では、「笹山縄文広場整備基本計画」の策定にあたり、令和 7 年 6 月 10 日に計画案を公表し、パブリックコメントを実施しました。実施結果と本市の考え方をまとめましたので、公表いたします。貴重なご意見・ご提案をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

1 パブリックコメントの概要

案件名	笹山縄文広場整備基本計画（案）
意見募集の期間	令和 7 年 6 月 10 日から令和 7 年 7 月 1 日まで
広報方法	・市報掲載（令和 7 年 6 月 10 日号） ・市ホームページ掲載 ・市文化財課、各支所企画政策課、各公民館、情報館にて資料配布

2 パブリックコメントの実施結果

意見提出者数及び意見数	9 人、22 件
提出方法	窓口、メール

3 いただいたご意見の内容（要旨）と市の考え方

ご意見の要旨	市の考え方
人口減少が見込まれる中、新たな施設整備には反対である。施設整備、維持管理経費、マンパワーはどのように調達するのか。現実的には、現在あるものを最大限利活用することを優先すべき。	縄文広場の整備は、国宝出土地・笹山遺跡を後世に継承するとともに、文化観光資源として有効活用することで、地域文化の発展と経済の活性化を図るものです。市民と事業者、行政が協働して、縄文をテーマとした賑わいを創出する広場を、十日町市の新たな文化観光拠点として整備します。 また、広場整備に要する事業費およびオープン後の維持管理経費については、市の財政負担を極力軽減する方法を検討します。
令和 9 年度の工事着工により、ガイダンス施設用地となっている現駐車場が使用不能となり、じょうもん市の開催に支障をきたす恐れがある。Ⅱ区全域を駐車場とし、令和 8 年度より工事を開始して、令和 9 年度のガイダンス施設の建設工事と同時に利用可能とする。	駐車場については、将来的な来訪者の増加や利便性を考慮して、Ⅰ～Ⅲ区の全域と隣接地を対象に整備を検討します。また、笹山じょうもん市については、今後もより充実したものとなるよう、地域の皆様と相談しながら、広場整備を進めます。
駐車場がガイダンス施設から遠すぎる。Ⅳ区西端のガイダンス施設に近い水田を駐車場とする。	駐車場については、将来的な来訪者の増加や利便性を考慮して、Ⅰ～Ⅲ区の全域と隣接地を対象に整備を検討します。

ガイダンス施設にランドマーク性は不要。P32の外観イメージは近未来的であり、縄文の風景になじまない。鉄筋コンクリート 2 階建てとし、1 階はトイレなど広場利用者向け、2 階は縄文学習のための区画とする。屋上に上がる階段を設け、広場を見下ろせるようにする。外観は周囲の景観に溶け込むように、深緑色の迷彩塗装とする。	ガイダンス施設の主な役割は、体験プログラムの実施と、笹山遺跡がもつ価値の発信を想定しています。この役割を果たすことができ、来訪者の利便性を考慮した施設の構造や諸室の配置を検討します。また、外観については、整備検討委員会でご意見をいただいた、ランドマーク性を持ちつつ、周辺の景観と調和したデザインを検討します。
夕日、夏至・冬至を施設に組み込むと誤解を生じる。縄文人が夕日を見ていた、夏至・冬至を意識して生活していたという証拠はあるのか。無いのであれば、施設の設計に取り込むことは好ましくない。	日本国内における縄文時代遺跡の発掘調査成果から、縄文人は季節によって変化する太陽の動きなど周囲の景観も取り入れて、集落の配置をデザインしていたと考えられています。
10 年後、20 年後にも継続できる管理運用を検討すべき。体験プログラムなど人間が行わなければならないことを除き、基本的に無人とする。スマホなどで必要な情報が入手できるようにする。	ガイダンス施設と広場の運用については、多様な来訪者が安全・安心かつ快適に利用し、そのニーズに答え、様々なサービスを提供するため、有人での対応を想定しています。また、収益性の高い体験プログラムを実施するなど、持続可能な管理と運営体制の構築を検討します。
計画案では、利用者別の導線の考察がない。一過性の観光客、行楽目的の地域住民、イベントに集まる地域住民の 3 パターンが考えられる。	広場内での来訪者の導線については、基本設計の中で詳細を検討します。
笹山縄文太鼓は、地域の縄文文化を伝える貴重な団体です。ここ数年、笹山じょうもん市では雨天による演奏中止が続いており、雨天時でも演奏が可能な屋根付きのスペースなど、演奏環境の整備を検討していただきたい。	ガイダンス施設では、雨天時でも屋外のイベントと一体的に利用可能なスペースの設置を検討します。
縄文文化の魅力を広く発信していくために、縄文への関心が深く、発信力のある著名人との連携を積極的に行っていただきたい。俳優の井浦新さんや片桐仁さんなどを音声ガイドやイベントなどで起用することで、多くの人に縄文文化への関心を持ってもらえと考えます。	俳優の井浦新さんをはじめ、多くの著名人が十日町市博物館と笹山遺跡を訪問され、国宝「火焰型土器」に関心を示されています。著名人と連携した取り組みにより、十日町市の縄文文化の魅力を国内外に発信することができるよう努めます。
笹山縄文広場整備が実行されることになり、喜ばしく思います。施設の展示について、今時のバーチャルリアリティを取り入れ、春夏秋冬に合わせて笹山の縄文人と対面・対話できるというものはいかがでしょうか。	ガイダンス施設と広場において、バーチャルリアリティ技術等を活用した、笹山遺跡ならではの体験型展示を検討します。

ガイダンス施設は、博物館の分館的な感じである。思い切った発想の転換を提案したい。現在の中条公民館は老朽化が進むなど、利用者にやさしい施設とは言えない。ガイダンス施設と公民館機能を合体させた、総合施設にしてはどうか。近い将来に公民館を地域コミュニティセンター化するという構想もある。市の施設を分散して管理・運営するよりも、1箇所にとめたほうが得策ではないか。スポーツ施設もあり、新しい地域文化コミュニティ活動の中心施設が誕生することになる。	縄文広場の整備は、国宝出土地・笹山遺跡を後世に継承するとともに、文化観光資源として有効活用することで、地域文化の発展と経済の活性化を図るものです。広場を市民と事業者、行政が協働し、縄文をテーマとした賑わいを創出する、十日町市の新たな文化観光動拠点として整備します。
ガイダンス施設には、本物の火焰型土器を展示していただきたい。笹山遺跡を案内した訪問者がびっくりさせてしまったことがあった。	ガイダンス施設では、実物資料の展示を想定しています（国宝・市指定文化財を除く）。平成23年度以降に実施されている学術発掘調査で出土した火焰型土器等の展示を検討します。
ガイダンス施設は、笹山遺跡の環境や景観と調和し、縄文が感じることができるよう、土や木、石など自然素材を用いて造っていただきたい。また、平和と共生の象徴である。笹山縄文を世界に発信する個性的な建物としていただきたい。	ガイダンス施設は周辺の景観と調和しながら、広場のシンボルとなり、国内外に広く笹山遺跡を情報発信できる外観デザインを検討します。また、外壁などの素材については、自然環境への負荷を抑えるよう考慮します。
ガイダンス施設の位置について、建設が予定されている遺跡の東側は聖なる場であり、近代的な建物があってはならない場と考える。現在の笹山縄文館の西側（Ⅰ区の西端）はどうか。元々、笹山ムラの広場があった所であり、遺跡の中心としてふさわしい。	これまでの発掘調査で明らかとなった環状集落の風景を広場内で再現するため、ガイダンス施設は遺跡東側での建設を検討します。
遺跡周辺の里山全体をサンクチュアリとし、みんなの手で森づくりをして、縄文の原風景を復元する。ブナなど落葉広葉樹を植林し、長い年月をかけて森づくりを進めて行く。	遺跡東側に自然が広がるⅣ区では、里山や水辺、棚田を生かした体験プログラムを行う森と、散策路として縄文の道の整備を検討します。時間をかけて、地域の生物多様性に配慮しながら、整備を進めます。
ガイダンス施設は通年で運営し、体験には四季折々の雪国の知恵・伝統を組み込む。また、木造で、大雪にも耐えうる施設とする。	広場は降雪期を除いて常時開放、ガイダンス施設は時間を設定し、通年での開館を想定しています。体験は縄文だけでなく、雪国ならではの自然、食と文化等に触れるプログラムの造成を検討します。また、積雪対策を十分考慮した、施設の設計を検討します。
笹山野球場を廃止して、「自然河川の遊水地と人（と車）のアソビ場」にする。縄文時代を想像しながら、体験学習の交流場にもできる。	笹山野球場と陸上競技場との一体的な活用も考慮した、体験プログラムの造成を検討します。

ガイドンス施設の建設予定地が、陸上競技場の駐車場となっている。その分の不足する駐車スペースの確保が必要である。	駐車場については、将来的な来訪者の増加や利便性を考慮して、Ⅰ～Ⅲ区の全域と隣接地を対象に整備を検討します。
笹山遺跡西側にある県道中条・田川線（旧道）の交差点付近では過去に事故が起こり、通学路にもなっている。広場への観光客を見込むのであれば、周辺整備も考慮していただきたい。	来訪者に対する交通事故への注意喚起や、歩行者に対する案内サインの掲示など、安全対策について検討します。
子育て世代をターゲットにしているのであれば、どのようなものを求めているのかを把握しなければ、集客を見込めない。	事前アンケートやモニターツアーの実施など、基本計画で設定している子育て世代を含むターゲット層のニーズの把握に努めます。
地域の子育て世代の共感を得られないと、地域住民は計画に不信感を抱くと思う。中条地区には公園があるが、週末は市外からの子ども達であふれ、地元の子育て世代は行かない状況である。	基本計画では、ターゲットの優先順位の第1に「30～40歳代の子育て世代」を掲げ、広場が地域の憩いの場となるような整備を行うとしています。地域の子育て世代のニーズを把握しながら、事業を進めます。
どこにでもある無個性な施設整備であれば、現状のままだがよい。地元は、豊かな自然資源の他に、織物産業に従事する方、建築技能を有する方など多数のステークホルダーに恵まれている。これらを総合的に活用するとよい。	広場整備では笹山遺跡の周辺に点在する歴史文化遺産や観光資源との連携を検討します。また、各種の技能を有する人材を含め、遺跡周辺にある豊かな資源の活用に努めます。

4 結果公表場所

市ホームページ、文化財課（博物館）、各支所地域振興課、各公民館、情報館